



ナシ黒星病の発生に注意してください 発病部位（葉や幼果など）の早期発見、摘除処理 を徹底し、薬剤防除を励行してください

例年、梅雨期を中心に、ナシの難防除病害である黒星病の果実の発生や蔓延しやすい時期となります。

今年のナシ黒星病の発生は、病害虫発生予報5月号（県病害虫防除所）によると、4月下旬現在、発病果そう率（本年0.2%、
 平年0.2%）、発生地点率（本年20%、平年20%）と平年並の発生状況でした。しかし、5月に入ってから梅雨のよう
 な天候が続いており、今後、黒星病の発生には十分な注意が必要と思われます。

ナシ黒星病は、発病した葉や果実、果そう基部などに形成された分生子が、降雨の時に分散して二次感染を繰り返します。
 このため、**伝染源となる発病部位を徹底して除去し、園外に持ち出して土中深く埋めるなど適切に処分**することが最も重要
 な対策となります。この摘除処理を徹底した後に、薬剤防除を励行することが重要です。

**ナシ「幸水」の果実に対する黒星病の感受性（病気にかかりやすい状態）は、幼果期（開花直後から20日後頃まで）には
 高く、幸水では開花後55日後頃から90日後頃にも再び感染しやすい状態になるとされています。このため、地域により若干
 異なりますが6月上旬頃～7月中旬頃までがこの期間にあたりますので、この間は薬剤の散布間隔が10日以上空かないよう
 に注意して、効果の高い薬剤を確実に散布してください。**

なお、向こう1か月の気象予報（5月19日発表）では、「期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半
 は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。気温は平年並または高い確率ともに40%ですが、降水量は平年並または多い
 確率ともに40%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%」と予想され、**黒星病の発生をやや助長する条件と考えら
 れるため、十分な注意が必要**となります。

＜防除のポイント＞

- 1 **必ず、発病した葉や果実、果そう基部などを除去し、土中に埋めるなど適切に処分した後に薬剤散布を行う。**
- 2 令和4年版露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例等に従って薬剤散布する場合は、ナシの生育に合わせて散布時期を調
 整し、防除適期を逃さないようにしてください。
- 3 SSによる薬剤散布にあたっては、10aあたり250ℓ+補正散布50ℓを目安に十分な薬量で、**かけむらの無いよう園内を縦横に
 走行して丁寧に散布**してください。なお、**圃場の周縁部など薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を
 行う**ことが重要です。

表1 令和4年版 露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例（茨城県）より5～7月の殺菌剤防除（殺虫剤は除きました）

防 除 時 期	防 除 薬 剤	希 釈 倍 数	分 類
養分転換期（5月下旬）	ベルコートフロアブル	1, 500倍	M7
（6月上旬）	オキシラン水和剤	600倍	M1とM4
（6月中旬）	フルーツセイバー	1, 500倍	7
（6月下旬）	キャプレート水和剤	600倍	1とM4
新梢発育停止期（7月上旬）	ストロビードライフフロアブル	3, 000倍	11
（7月中旬）	アンビルフロアブル	1, 000倍	3
	ベルコートフロアブル	1, 500倍	M7

注）分類欄には、FRACコードを記載しました（コードが2つは混合剤）。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けて
 ください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 NEWS は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。